

Newsletter for JADR

I. 2015年度ノーベル賞日本人受賞に際して思うこと —地道なオリジナル研究とチーム力—

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

2015年度のノーベル賞に、医学・生理学賞で北里大学の大村智特別荣誉教授、物理学賞で東京大学の梶田隆章宇宙線研究所所長のお二人が日本人として選ばれました。日本人の受賞は、昨年の物理学賞に続いて2年連続で、JADR会員の皆様も日本人科学者として誠にうれしくまた誇らしく受賞のニュースをお聞きになったものと拝察します。大村先生のご業績はオンコセルカ症の治療薬である抗寄生虫薬イベルメクチンの開発であり、梶田先生のご業績はニュートリノ振動を発見し、ニュートリノに質量があることを証明されたことです。お二人の先生がたは、いずれも地道なオリジナル研究の成果であることは言うまでもありませんが、お二人のご研究を支えた2つの企業にも敬意を表したいと思います。イベルメクチンによってアフリカを中心に何百万人もの人たちがオンコセルカ症による失明から救われましたが、イベルメクチンの開発とWHOによる無償配布にはメルク社の協力が不可欠でした。また、ニュートリノに質量があることはスーパーカミオカンデでの観察が基盤にあり、その光電子増倍管を手掛けたのは浜松ホトニクス技術力でした。梶田先生は、チーム力の成果を協調されています。昨今、大学のミッションとして、教育、研究に加えて産学連携による社会への還元的重要性が挙げられるようになりました。我が国が持続的な発展を実現し、国際社会の中で存在感を示していくためには、イノベーションを連続的に創出し、社会を変革する新たな価値や産業を生み出していくことが必要です。歯科医学、医療分野でも、地道なオリジナル研究の遂行に加えて、国際的に活躍することのできる人材の育成ならびに産学官連携による革新的医療の開発が求められています。

アメリカ国立歯科・頭蓋顔面研究所 (National Institute of Dental and Craniofacial Research, NIDCR) では、今後の歯科医学、医療研究の方向性として、歯科・頭蓋顔面領域の疾患の遺伝学的解析、環境やエピゲネティックな要素の解析、行動科学的解析、ビッグデータを用いた解析と応用、唾液診断やイメージングなどを用いた精度の高い診断法やリスク判定法の開発、歯科・頭蓋顔面領域の疾患の分子標的治療や新規材料の開発、専門分野をまたいだ国際的に用いることのできる電子個別医療システムの開発などが挙げられている。また、このために、専門分野を越えた社会全体の連携を必要と述べています。JADRは領域横断型の学会で、学術大会では国際的視野から最先端の研究を基礎系研究者と臨床系研究者が一堂に会して発表することによって、NIDCRが掲げている研究テーマを含めて、歯科医学、歯科医療研究の動向を俯瞰することができますし、異なる領域の研究が融合する機会が数多く準備されています。

第63回JADR総会・学術大会が中村誠司会長(九州大学)のご尽力によって、2015年10月30日(金)と31日(土)の両日に渡って福岡国際会議場で開催されます。「口腔から全身の健康に貢献する」というテーマの元に、IADR会長Heft先生のご講演をはじめとする特別講演や最近の話題に関するシンポジウム、さらには若手研究者の成長を目の当たりにすることのできるコンペティションなど、数多くの企画が準備されております。学会場でお目にかかれますことを楽しみにしております。

II. 第93回IADR学術大会 (Boston) 報告

1. Distinguished Scientist Award for Geriatric Oral Research を受賞して

池邊 一典

(大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座
有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野)

この度、2015年度のIADR Distinguished Scientist Award for Geriatric Oral Researchを受賞いたしました。同賞の候補者の一人としてノミネートしていただいただけでもありがたいことですが、研究成果を選考委員会に評価していただき、今回このように受賞の栄誉に浴しましたことは、望外の喜びと感じております。これまでに、当該分野の世界の著名な研究者が本賞を受賞しておられますが、日本からは宮崎秀夫先生(新潟大学教授)が受賞しておられます。

私の研究は、大規模な疫学調査と多くの口腔機能のデータの収集・整理・分析が核になり、多くの研究者の協力が必要です。これまで辛苦を共にし、一緒に研究に励んでくれた大阪大学大学院歯学研究科 有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野の先生方に心より御礼申し上げます。また歯科学の発展のため、ボランティアとして自ら進んで調査に参加していただいた高齢者の皆様方に、心より感謝いたします。

私の専門分野は元々有床義歯補綴学ですが、高齢者歯科学は、当然、高齢者に対する歯科補綴学ではなく、口腔の老化の科学でもなく、行動科学の要素も含まれます。成人とは異なる高齢者特有の問題点を明らかにし、口腔の健康が心身の健康や生活の豊かさなどにどのように関連するのかを探求する学問だと考えています。したがって、生活者としての高齢者を対象にしなければ意味がないことが、他の研究領域と際立った違いです。



安孫子宜光 IADR 会長 (日本大学松戸歯学部) より受賞

私は、1992年頃より、高齢者の口腔乾燥、口腔感覚、味覚に関する研究を始め、老化によるこれらの変化が、咀嚼機能に及ぼす影響を、検討してきました。1999-2000年には、米国Iowa大学に留学し、Ronald Ettinger教授に師事し、高齢者歯科学の真髄を教えてくださいました。未知のこと、未整理のことが多いのを知り、夢中になって研究を進めました。2010年からは、大阪大学の老年内科学、老年心理学の先生方と共に文理融合型のコホート研究を立ち上げ、健康長寿の要因を探索する包括的なアプローチを行っています。特に高齢期に、“食べる”機能を維持・回復する専門家として、口腔機能と栄養摂取との関係に着目し、栄養疫学の専門家とも研究を進めています。

最後になりましたが、私を研究者へと導き、育てて下さいました野首孝嗣先生(大阪大学名誉教授)、広い視野からの確かなご助言を与え、わがままな私を温かくご支援して下さいました前田芳信先生(大阪大学教授)に、心より感謝申し上げます。

2. Bernard G. Sarnat Award 1st place を受賞して

山本 直

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野)

2015年3月に米国マサチューセッツ州ボストンで開催された93rd IADR General Session & Exhibitionにおきまして、大変幸運にもCraniofacial Biology GroupのBernard G. Sarnat Award 1st placeに選出していただく光栄に浴することができました。本賞は、Craniofacial Biology Group内のポスター発表の抄録のもとに選出された10人のファイナリストが、審査員の前で研究内容をプレゼンし質疑応答を行い、受賞者が決定されるものです。

私は、“Multiplied Tooth Regeneration by Transplantation of a Cleaved Tooth Germ”というタイトルにて、発表させていただきました。本研究は、マウスの単一歯胚を人為的操作により複数個に分割することに成功し、さらに、その分割歯胚をマウス成体の歯の欠損部に移植することによって天然歯と同等の生理的機能を有した複数個の歯を発生させることが可能であることを実証した研究です。本知見が、自家歯胚を用いた近未来的に実用可能な歯の再生技術として、今後の歯科再生医療の発展の一助となることを期待しております。今回、私にとって初めての国際学会であり、またcompetitionの他のファイナリストは全員アメリカの大学所属でしたので、言語の面でも非常に緊張した審査となりました。ポスターの前での10分程度のプレゼン後の質疑応答では、審査員の先生方に大変興味をもっていただき、多くの質問やご意見をいただきました。同じフィールドで研究されている先生方のご意見は、

論文執筆またさらなる研究の参考になり、非常に実りある時間となりました。

IADRのような国際学会は、自身の研究成果を発表する場というだけではなく、同じフィールドの先生方との意見交換が出来るとともに、他分野の先生方との交流、旧友や恩師の先生方との再会をも実現させてくれる素晴らしい場となりました。

最後になりましたが、研究指導をしていただいております理化学研究所 多細胞システム形成研究センターの辻孝先生、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 インプラント再生補綴学分野の大島正充先生、そして、このような素晴らしい発表の機会を与えてくださった、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野の森山啓司教授に厚く御礼申し上げます。

3. 93rd General Session & Exhibition of the IADR in Boston に参加して

太田 美穂

(九州大学大学院歯学府口腔顎顔面病態学講座
顎顔面腫瘍制御学分野)

2015年3月11日～14日、アメリカ合衆国ボストンで開催された第93回IADR学術大会に参加いたしました。開催地であるボストンを訪れたのは初めてで、着いてすぐに日本とは異なる寒さや路肩に積もっている雪の多さに驚かされました。ボストンは、古くも綺麗な教会をはじめ歴史を感じさせる建物と高層ビルなどの近代的な建築物が隣に立ち並んでいる街並みがとても印象的でした。また学会会場であった Hynes Convention Center から程近いチャールズ川を挟んでボストンの対岸に位置するケンブリッジには、全米の最高峰かつ最古の大学と言われているハーバード大学や、世界有数の工科大学として知られるマサチューセッツ工科大学があり、キャンパス内ではさまざまな学生さんの姿を見かけ、大学の街と言われる所以を少し知ることができたと思います。食文化の面では、海に面したボストンではやはりシーフードが有名とすることで、個人的には様々なお店で出されているクラムチャウダーがとても美味しかったです。

私は、今回ポスターセッションに参加いたしました。ポスター会場は、2会場が繋がられたようなとても広い空間でしたが、ポスター間には行き来できる程のスペースもあり見て回りやすかったと思います。発表時間になると、多くの参加者が集まり、あちこちで活発なディスカッションが行われていました。私は、先に行われたJADRに引き続き「DNA Microarray Analysis of Salivary Glands Involved in IgG4-related Disease」という演題で発表させていただきましたが、JADRの時以上に国籍や分野を問わず多くの先生からの貴重な御質問や御意見を頂くことができました。英語でのディスカッションはやはり緊張するものではありませんでしたが、今後の研究遂行

にあたり自身の研究を見つめ直すきっかけとなり、大変有意義なものであったと感じました。また、夜には数多くのレセプションパーティーが開催され、様々な国の先生方が参加され交流を深めていました。みなさんととてもフレンドリーで、普段の生活の中ではなかなか知り合う機会もない先生方とお話することができたことは、とても刺激的で楽しかったです。改めて、英語でのコミュニケーション力を向上させ、もっと交流の場を広げていきたいと感じました。

今回の経験は、今後の研究へモチベーションの向上へとつながりました。更なる成果を出せるよう研究に励み、また発表の機会を得たいと思います。

4. 第93回IADR学術大会報告 — Prosthodontics Research —

三浦 貴子

(東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野)

第93回IADR学術大会が3月11日から14日、アメリカ東海岸の美しい古都、ボストンで開催された。ボストンは私の憧れの街のひとつだ。中世ヨーロッパを彷彿とさせるレンガ造りが印象的な街並みと近代的な高層ビル群や知的・芸術的空間が共存する、新旧の調和した港町である。壮麗なシンフォニーホールの様式美と杖を片手にそこに佇むきりっと着飾った老紳士、おしゃれなカフェや流行に左右されない老舗が立ち並ぶレンガ色に染まったチャールズ通り、通りの突き当りに広がるアメリカ最古の公園ボストンコモン。学会の合間を縫って触れた美しい文化と風土は思い描いていた通りのそれで、3月のボストンの寒さを忘れさせるのに十分だった。

今回のIADRの演題数は全部で4743題、Prosthodontics Researchに限ると口演発表が38題、ポスター発表が136題の合計174題、補綴学という歯科医学の中心的存在にもかかわらず全体の4%弱に過ぎない。毎度のこととはいえ演題数の多さも然ることながら集まる演題の多様性に驚かされる。Prosthodontics Researchには22カ国から演題が提出され、ブラジルの発表が最も多く、次いでアメリカ、日本、ドイツであった。

口演発表は7つのセッションからなり、初日にはArthur Frechette Award competitionが行われた。Materials and Clinical Science Categoryでは当教室の原田章生先生がファイナリストに選出され、大学院4年間の集大成ともなるコンポジットレジックラウンの大白歯応用に関する研究成果が発表された。

一方、ポスター発表は8つのセッションで構成され、私のエントリーしたCeramics and Cementation sessionは15題で、それらの内容は主にジルコニアを用いたオールセラミック修復やその陶材、あるいはレジンセメントの物性に関するものであった。会場中どこを見渡しても、活発なディスカッションが繰り返されており、私自身も多くの質問やアドバイスをいただき、75分間の質疑応答がとても短く感じられた。また、

今回はCAD/CAMやdigital impressionに関する発表が目立ち、現在の潮流を感じるIADRでもあった。

シフトチェンジ。それが国際学会で発表する大きな目的だと考えている。国際学会での発表は反響が大きく、国内学会では得られづらい思いもかけない反応や次の目標へのヒントが得られる。それらを持ち帰って、研究を加速させたり舵を取り直すきっかけや原動力にするのだ。きっと私だけではないだろう。次のIADRで発表できるよう研究に励んでいる後輩達にもそのことを伝えたい。

5. Prosthodontics Research

石川 万里子

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

2015年3月11日から14日の4日間にわたり、アメリカのボストンで開催されました、93rd IADR General Session & Exhibitionに参加し、発表させて頂きました。ボストンはアメリカ合衆国マサチューセッツ州北東部サフォーク郡にある都市で、アメリカで最も歴史の古い街の一つです。ボストン大学、ハーバード大学をはじめ、市内および周辺地域には多くの総合・単科大学があり、高等教育の中心地であるとともに、医療の中心地でもあります。また、治安もよくアメリカ国内でも最も安全な都市のひとつです。

飛行機でローガン空港に到着する直前に、窓から見るボストンは真っ白な雪景色でした。空港から出た瞬間、冷たい空気に気を引き締められたのを覚えています。私達が滞在した学会期間中は、天候に恵まれ、雪も降らず、気温も前の週よりも高めでした。しかし、雪は私の膝丈より高く、最低気温は-5℃、最高気温10℃前後のボストンは日本から訪れた私にとっては、肌に刺さるような寒さでした。

私が参加したポスター発表は2日目から4日目まで行われました。Prosthodontics Researchのポスター発表は全部で90題、私は2日目のProsthodontics ResearchのClinical and Biological Research, Fixed and Removable Prosthodonticsで発表させて頂きました。演題は20題で、開催国であるアメリカの演題が1番多いと思っていましたが、ブラジルが最も多く、イギリス、イタリア、中国、カナダ、チリなど様々な国からの演題で構成されていました。日本からも私の他に1名の先生が発表されていました。補綴材料・補綴装置(クラウン・ブリッジ・義歯・インプラント等)の基礎から臨床に渡る広範囲な発表が行われており、どのポスターの前でも、活発なディスカッションがなされていました。私のポスターにも、様々な先生が足を止めて下さり、国内外の先生方と交流することができました。また日本ではなかなか伺えない貴重なご意見やご指摘を頂き、今後の研究課題や方向性を再度確認させて頂くとともに、有意義な時間を過ごすことができました。

今回、私は初めてIADRに参加させて頂きました。普段参

加している学会は一つの専門分野についての発表のため、他分野のポスターが見切れないほど並ぶ今回の学会は、新鮮で刺激を受けました。また発表を通じて世界中から集まった先生方と意見交換を行うことができ、充実した学会発表となりました。今後も努力し、機会があれば国際学会で発表を行いたいと思います。今回このような機会を頂き、参加して得られた貴重な経験を、来年の韓国での発表を目指している後輩に伝えていきたいと思います。

6. 第93回 IADR 学術大会 (Boston) 報告

—Implantology Research—

岡田 征彦

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

2015年3月11日から14日の4日間にわたり、アメリカのボストンで開催されました93rd IADR General Session & Exhibitionに参加し、ポスター発表させて頂きました。学会が開催されたボストンはアメリカ合衆国マサチューセッツ州にある人口60万人程の都市で、アメリカで最も歴史の古い街の一つです。ボストン大学、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学をはじめ、市内および周辺地域には多くの総合・単科大学があり、学園都市としても知られております。

今年アメリカ東海岸は大規模な寒波が到来したこともあり、降雪や吹雪に関して不安もありました。しかし、私達が滞在した学会期間中は天候に恵まれ、学会と共に歴史のあるボストン町並みや、ボストン大学等を見学することができました。

Implantology Researchのポスター発表は全部で142題あり、私は4日目のClinical Studies on Implant and Superstructure Designs & Peri-implantitisの分野で発表させて頂きました。この研究分野の演題は19題で、アメリカのみならず、ヨーロッパ、南米など様々な国、地域からの演題が発表されておりました。私と同じ発表分野であっても、地域や国によって使用される資料なども違いがあり、大変興味深い発表が多く、どのポスターの前でも、活発なディスカッションがなされていました。今回の私の研究分野ではショートインプラントに関する力学的考察を行っている発表が多く、Implantology Research全体としてはfixtureの表面性状や歯周組織の再生、誘導に関する研究が多く見受けられました。また、口頭発表はImplantology Research全体で41演題あり、インプラントに対する感染防止などに関する研究が多く、現在インプラントに関して世界的にどういった分野が注目されているか知ることができました。

私のポスター発表は75分間という短い時間でしたが、私のポスターにも様々な先生が足を止めて下さり、国内外の先生方と交流ができました。英語での質疑応答などに関して難しい場面もあり、英語やコミュニケーション能力の重要性を改めて再認識致しました。

初めて今回海外の学会に参加させて頂きましたが、特に良

かった点は世界各国における最新の研究報告の一端を知ることができたこと、また、不完全ながらも、英語で海外の方と意思疎通が取れた時の喜びを知ることができたという点です。今後も国際学会で発表を行えるよう努力して行きたいと存じます。今回このような機会を頂き、支えて下さった佐藤教授を始めとする昭和大学高齢者歯科学講座の先生方、関係者の皆様には本当に感謝しております。今回参加して得られた貴重な経験を、後輩に伝えていきたいと思えます。

7. Prosthodontics Research

福西 美弥

(昭和大学歯学部歯科補綴学講座)

昭和大学歯科補綴学講座の馬場一美教授、小野康寛助教、上村江美(大学院2年)、顎関節症科の船登雅彦科長とともに2015年3月11日から14日にアメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンで開催された第93回 IADRに参加致しました。ボストンの街並みはイギリスからやってきた清教徒たちが創った街ということもあり、レンガ造りの建物が多く、歴史を感じられるとても美しい街でした。日本は三寒四温と春を感じさせる季節でしたが、ボストンの街には雪が残り、川は凍っておりまだまだ春には程遠い冬の季節でした。しかし、ボストンの寒さとは裏腹に、学会会場である Hynes convention center では活気溢れる研究発表とディスカッションによって熱気に包まれていました。その中で私は Prosthodontics Research - Removable Prosthodontics において Oral Presentation で発表致しました。Prosthodontics Research では Oral Presentation 38 題、

Poster Presentation 135 題、計 173 題の演題があり充実した研究発表内容となっていました。学会に参加し驚いたことは、Oral Presentation / Poster Presentation 関わらず活発なディスカッションが行われていたことです。各国・各研究分野の先生方が自由にディスカッションをしている光景は、より良い研究にするために、より良い歯科医師になるためにという熱意が伝わり非常に感銘を受けました。今回、私は最終日の 10 時 45 分からのセッションでチームの先生方、同大学の先生方に見守られながら発表致しました。この発表が決まった日から、毎日英語との戦いが始まりました。学会前、学会中と不安と緊張が絶えませんでした。今、発表を終え、IADR の発表に向け準備した日々は非常に充実しており、達成感でいっぱいです。あの瞬間の緊張感、光景や気持ちは決して忘れることはできません。この素晴らしい経験から、私がかれからやならければいけないことは、自身の研究を世の中に発信し、歯科医療をより良いものにできるように努力していくことだと再認識致しました。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった馬場教授をはじめ、発表にあたり、スライドの添削、予演会を何回も行ってくださった先生方、また、研究をご指導してくださいました先生方に心より感謝申し上げます。簡単ではありますが、今回の IADR の参加報告とさせていただきます。

8. 第93回 IADR General Session (Boston)に参加して —Implantology Research—

大倉 一夫

(徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学講座)

2015年3月11日から14日までマサチューセッツ州ボストンで開催された第93回 IADR General Sessionに参加しました。ご存じの通りボストンは歴史有る学術都市であり、ハーバード大学をはじめ、マサチューセッツ工科大学(MIT)やボストン大学など名だたる名門校が集中しています。岡倉天心の在籍した有数の美術館であるボストン美術館は数日では概要すらつかめなんでしょう。例年この季節のアメリカ東海岸はまだ冬ですが、直前に寒波が襲来してニューヨークの空港で積雪によるオーバーラン事故がありました。幸い我々が到着して二日間は奇跡的な好天で積もっていた雪も溶けましたが、残念ながら後半は終日冷たい雨の降る天候でした。会場は Hynes Convention Center と Boston Sheraton Hotel であり、Opening Ceremonies から Welcome Reception へと流れ込み General Session が始まりました。会場は冬の寒気をもとめせず、多くの参加者による研究発表と討論によって活気にあふれていました。

Implantology Research のセッションでは、Meeting Room210 において口答発表が31題、Exhibit Hall C においてポスター発表が102題、計133題の発表がありました。残念ながら数題



The Hynes convention center にて

の withdrawn があったようです。日本からは、口答発表1演題を含む14題の発表がありました。なかでもインプラント表面性状とインプラント周囲炎に関する演題が多く見られました。インプラント表面と細胞培養、再生と治癒増強、Biomechanics、上部構造とのインターフェイス、骨造成の材料と手法、手術、インプラント表面性状、インプラント周囲炎の臨床研究、予後予測因子、インプラント上部構造のデザインに至るまで、基礎から外科、補綴臨床に至る様々な発表があり非常に有意義な時間を過ごすことができました。

IADRに参加したことで、多くの研究者と意見を交わし、討論、交流するなかで、あらたな視点や考え方に触れることができ、非常に大きな刺激を受け、モチベーションが上がりました。今後、この刺激を自分自身のさらなる研究に活かしていきたいと思います。韓国で開催される第94回 IADR General SessionがこのボストンにおけるSession同様熱気と成果にあふれたものであることを期待しています。

9. 第93回 IADR Boston 大会(Prosthodontic Research)

鈴木 善貴

(徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野)

2015年3月11-14日にアメリカはボストンで開催された93rd General Session of the IADRに参加して参りました。3月のボストンは積雪も多く残っており、まだまだ寒かったのを記憶しております。ボストンの歴史は古く、情緒ある古い建築物が多く、近代的なビル群の中に残っているのが、とても印象的でした。また、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、そしてタフツ大学を始めとした、世界随一の教育機関が揃っていることにも感銘を受けました。

今回、私は『Examination of close-open jaw movement trajectories during sleep bruxism』というタイトルでポスター発表を行いました。睡眠時ブラキシズムにおける特異的な顎運動について分類を行い、その発現頻度を観察したもので、近年、生理学的な研究が減ってきているにも関わらず、多くの研究者の方々に興味を持って頂き、意見交換を行うことができたことで、まだまだこの研究が世界的にも重要であることを再認識することができました。

Prosthodontic Researchの分野においては、インプラントオーバードデンチャーや接着に関する報告が依然多かったように思います。そんな中、わが国でも高齢社会が深刻な問題になっており、高齢者の口腔衛生に注目が集まっていますが、義歯の衛生状態(プラークの付着や洗浄剤の効果)に関する研究が増加してきているのが印象的でした。その一方で、歯冠補綴に関しては、CAD/CAMなどのデジタルデンティストリーに関する報告が増えてきており、将来的にこの分野の診療はもっともっと効率化し、また安定して高品質な補綴装置を患者に提供できるようになるであろうと、私は期待を隠せませ

んでした。

本大会で得た知識は必ずや今後の研究活動に役立ち、歯科の更なる発展に貢献するものになると同時に、後進への臨床および研究指導に繋がるものになると強く感じております。

10. 第93回 IADR 学術大会 (Boston,) 参加報告 Neuroscience

大本 勝弘

(徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野)

アメリカのマサチューセッツ州ボストンにて3月11日から14日に開催されました第93回 IADR General Session & Exhibitionに参加しましたのでご報告させていただきます。3月のボストンでは滞在期間中、降雪に見舞われることはありませんでしたが、街を流れるチャールズ川は川氷に覆われ、道路脇には除雪された雪が残り、冬の厳しさを連想することは容易でした。赤レンガの建物が立ち並び歴史の深さを感じさせる落ち着いた街並みの中、会場である Hynes Convention Center は熱気に溢れ活発に討論がされていました。

学会では、私の研究テーマである Neuroscience のセッションを中心に参加しました。本セッションは口演発表17演題、ポスター発表70演題の発表がありました。今回この分野からの日本の発表は22演題で、すべてがポスター発表でした。今大会での大きなトピックとしては DC/TMD があげられるでしょう。大会前日の10日には「Dissemination of Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders」というタイトルでサテライトシンポジウムが早朝から夕方までの長時間に渡り開催され、一般発表においても DC/TMD をテーマにしているものがいくつか見受けられました。ブラジルのグループは DC/TMD 習得コースを受講した人とそうでない人で患者の診査診断を行った場合、コースを受講したグループでは筋痛診断の妥当性が向上することを報告していました。個人的にはブラジルのサンパウロ大学のチームが口演発表を行った、*in vivo*での実験でグリア細胞の活性が TMD に関連して上昇し、グリア細胞が新しい治療のターゲットに成り得るという報告を聞き、今後の研究に取り入れていきたいと感じました。また、日本にとって大きなトピックとしては日本大学松戸歯学部の小見山 道先生が Neuroscience グループのチェアマンとして選出されたことも重要であると思います。

私自身は学会三日目の Seq # : 262 Neuromodulation in TMJ Pain and Inflammation で「Relationship Between Neurotransmitter release within sensory ganglia and pain transmission」というタイトルでポスター発表を行いました。同じセッションでは他に日本からの発表は1演題でアメリカからの発表が最も多く、他にデンマーク、スウェーデン、中国など様々な国からの報告がされていました。75分という発表時間の中、国際発表に不慣れな私のポスターの周りにも関心を持ってくれた国内外

の先生方が集まり、活発なディスカッションを行うと同時に、今後の研究のアドバイスをいただくことができました。本学会に参加し、国際発表を行うことを目標に、研究を進めてきましたので、達成することができた喜びと、それ以上に今後の研究へのモチベーションの向上へとつながったと感じています。是非、後輩たちにも次回大会での発表に向けて研究を進めて頂きたいと希望しています。

11. Join in the 93rd General Session of IADR

徳江 藍

(鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)

2015年3月11日から14日までアメリカ、マサチューセッツ州のボストンにて93rd General Session & Exhibition of the IADRが開催されました。ボストンは、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学などの有名大学やフォーサイス研究所などの有名な研究施設があり、教育や医療の中心地でもあるアメリカで最も歴史の古い都市です。ボストンは日本から直行便もあり大都市であることから、日本からたくさんの発表者が訪れているように感じました。ボストンの冬は厳しいと聞いてはいましたが、確かにまだ3月は、とても寒く不用意に外出するのは避けたほうがよいと感じるくらいでした。しかし、会場のHynes Convention Centerはショッピングモールやいくつかのホテルが連なった施設のため、私たちは外へ出

ることなく、軽装のまま会場内を歩くことが出来ました。また口演、ポスター発表は共に非常に広い会場で行われており、どの会場も連日多くの参加者がいて研究発表や旺盛なディスカッションが交わされ、とても活気にあふれていました。

ポスター発表は、1日目から3日目まで行われました。今回は第1日目のPolymers for Mouth guards, Orthodontics, Infiltration, Repair, and Other Uses – Propertiesというセッションで「Mechanical properties of mouth splint with glass fiber reinforcement」というタイトルで発表をさせていただきました。このセッションは、14題から構成されていて、アメリカ、ブラジルからの参加者が大半を占めていました。日本からは、私以外に北海道医療大学の先生が発表されていました。ディスカッションは75分という限られた時間の中で、どのポスターも活発に練り広げられていました。国内外の先生方から頂いた質問やアドバイスはとても勉強になり、今後の研究に活かせるように努力をしていきたいと気持ちが引き締まりました。

IADRで発表をさせていただくのは今回で3度目になりますが、国外の研究者達と直接交流が図れることやその土地の風物を見聞きし、名物を味わえるのもこの学会の醍醐味であり、今回も美味しいロブスターやクラムチャウダーを友人達と戴くことができました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった大久保力廣教授、Turku UniversityのProf. Vallittu, Dr. Lassilaに深く感謝申し上げます。

Ⅲ. IADR hatton Award本選を終えて

1. IADR hatton Award 本選を終えて

木山 朋美

(東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエゾンセンター口腔システム補綴学分野)

この度、第62回JADRにおいて、Hatton Divisional Awardを受賞し、2015年3月10日、Bostonで開催された第93回IADR学術大会において、IADR/Hatton Award最終候補者として、発表させて頂く貴重な機会を得ましたので、ここに報告いたします。

この賞は、若手研究者を顕彰する目的で設けられ、以後60年以上にもわたり継続している歴史ある賞です。研究歴別に3つのカテゴリーに分けられ、私は、“Prevention of mouse BRONJ by an inhibitor of phosphate transporters.”と題して、Senior Category (Basic Science) 部門にて発表を行いました。

選考方法は、まず世界各国の支部において、書類選考及びプレゼンテーションにて予選を行った後、選出された候補者が、IADR学術大会の本選にて競い合うという形式になっています。予選、本選ともに英語で行われます。

さて、プレゼンテーションを準備するにあたり、私は、『いかに審査員の方々に自分の研究に興味を持って頂けるか』に焦点をおきました。そのために、伝えたいポイントを2~3個のみに絞り、各ポイントの相互関係を図示化しました。これにより、プレゼンテーション終了後に、審査員の方々の頭の中にシンプルなイメージが形成されるように意識しました。また、著名な審査員の先生方を目の前にお話しすると、私たちはどうしても緊張して速く話しがちです。しかし、背筋を伸ばし自信をもって、ゆっくりと時間をかけて、審査員の方々の反応を伺いながら説明するよう心がけました。

発表後の質疑応答では、示した各ポイントに基づいて2~3個ずつ、合計6つほどの的をついた質問を頂き、整理整頓し

ながら順を追ってお伝えすることができました。さらに、審査員の方からは、今後のアドバイスも含めて総評も頂くことができ、終始和やかな雰囲気の本選となりました。

コンペティションの翌日には、各国の最終候補者が、1箇所に集まってポスター発表を行い、さらに、レセプションにおける交流の機会もいただきました。そこでは、世界中の同年代の仲間が集い、自らの研究についてのディスカッションはもちろん、各国での歯科治療、研究環境の話から、将来のプランに至るまで、多岐にわたり、非常に刺激を得るとともに、楽しむことができました。このように、ライバルでもあり、仲間でもある貴重な友人を得ることができたことから、忘れられない非常に印象深い学会となりました。

最後になりますが、この場をお借りしまして、本研究を熱心にご指導くださり、様々な機会を与えてくださいました、東北大学大学院歯学研究科の佐々木啓一先生、遠藤康男先生、The Forsyth Institute (Boston, USA) の河井俊久先生に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2. IADR Hatton Award 最終選考を終えて

中島 麻由佳

(新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野)

この度、ボストンにおいて2015年3月10日から15日に開催された第93回IADR総会・学術大会 Hatton Award 最終選考に参加させて頂きましたこと、大変嬉しく、光栄に思っております。選考委員会の先生方や大会運営に携わって下さった方々に深く感謝致します。

発表させて頂いた演題“Oral administration of *P. gingivalis* and alteration of gut microbiota”は、歯周炎が全身に影響を及ぼす新たなメカニズムを明らかにしたものです。

歯周炎は動脈硬化症や糖尿病などのメタボリックシンドローム関連疾患のリスク因子であることが報告されています。これまで、そのメカニズムとして歯周炎組織を介して歯周病原細菌や炎症性サイトカインが血液循環に流入し、全身性の炎症を引き起こすことが考えられてきましたが、はっきりとした証拠は示されていませんでした。

私達の研究グループは以前より、歯周炎が全身疾患を進行させる新たなメカニズムとして腸内細菌叢の変動に着目していました。重度の歯周炎患者さんの口腔内には大量の歯周病原細菌が存在し、毎日唾液と共に飲み込まれていることから、飲み込まれた細菌が腸管において何らかの影響を及ぼすことで全身疾患のリスクが上昇するのではないかと考えたからです。実際に歯周病原細菌の一つである *Porphyromonas gingivalis* をマウスの口腔へ繰り返し投与したところ、腸内細菌叢が変



Hatton Awards Ceremonyにて

化すると同時に各組織と全身における炎症及びインスリン抵抗性が惹起されることが明らかとなりました (Arimatsu K *et al.*, *Sci Rep.* 2014)。

今回、マウスへ1回 *Porphyromonas gingivalis* 投与した後に解析を行ったところ、たった1回の投与によって腸内細菌叢の変動、血清中エンドトキシン活性の上昇等の変化が生じ、さらには体内組織への細菌侵入量が増加していることが明らかとなり、メカニズムの詳細及び菌周病原細菌を飲み込むことの影響力の大きさを明らかにする結果となりました。

今回は残念ながら受賞をすることができませんでしたが、このような機会を頂き、多くの海外の先生方から貴重なご意見やアドバイスを頂き、今後の課題を学ぶことができました。また、他の Division の候補者の方々と研究の話はもちろん、様々な話をして交流できたことも、大変貴重で、有意義な経験となりました。

この経験を糧に、今後も更に研鑽を重ねてまいりたいと思っております。

最後になりましたが、ご指導頂きました山崎和久教授、多部田康一先生、中島貴子先生、吉江弘正教授、ならびにご協力頂きました共同研究者の方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

3. IADR Hatton Award 最終選考を終えて

古川 祥子

(九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座
顎顔面腫瘍制御学分野)

この度は2015年3月に開催された第93回 IADR ポストン大会において IADR Hatton Award に選出して頂き、大変光栄に存じます。

これまで国際学会での口演発表経験は1度しかなく、質疑応答では「Excuse, could you repeat that for me slowly?」と伝えても上手く答えられないといった始末で非常に苦い記憶でした。私は IADR 会場のポストンに向かう前に共同研究を行っているバージニア大学に寄り、IADR の発表に先立ってリサーチディスカッションをしてきました。多くの研究者と質疑応答をし、たくさんの刺激とモチベーションをもらい、いよいよポストンへ向けて移動です。IADR 選考会の前日にマサチューセッツ空港からポストンに向けて搭乗手続きをしている矢先、フライトキャンセルが明らかになりました。ポストン行きの便は翌日にしか出発しないと聞かれ、急いで別の空港にタクシーで3時間かけて移動し、搭乗時間5分前にチェックインを済ませ、ポストンに深夜12時に無事に到着しました。直前のフライトトラブルで尚更緊張感が高まった状態で選考会当日を迎えました。選考会会場は多くの候補者が発表直前まで各々の練習をしており、緊張感が漂った異様な空間でした。選考会を無事に終え、Hatton Award 候補者のコンペティシ

ョンに参加しお互いの苦勞を労いました。その際に同じ年代の研究者が真摯に研究に取り組んでいること、それぞれの研究分野は異なるものの目標を持って日々努力していること、知的好奇心が高く柔軟な思考を持っていることなどが分かりました。

私は選考会で IgG4 関連涙腺・唾液腺炎の病態形成における免疫細胞の関与について発表を行いました。この疾患は両側涙腺・顎下腺の腫大を特徴とする疾患で、前まではミクリッツ病もしくはキュトナー腫瘍と呼ばれていた唾液腺疾患です。近年になり免疫学的異常が病態形成に関与していると報告され、特に2型ヘルパー T (Th2) 細胞が重要と言われています。そこで私は Th2 細胞を活性化させるサイトカインの IL-33 に着目し、その産生細胞の同定を行い、マクロファージが主な IL-33 産生細胞であると報告しました。この研究の最終目標は新規治療方法の確立ですが、まだ証明しなければならない事項や検討しなければならない事項が多く、目標達成にはほど遠いですが、本研究が今後の研究の発展の一助となることを期待しております。

最後になりましたが、このような研究機会を与えて下さり、またご指導を頂いております九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野の中村誠司教授、森山雅文助教に心より感謝致します。また、これまでの研究にご協力頂いた諸先生方に厚く御礼を申し上げます。

4. Hatton Award 最終選考を終えて

真喜志佐奈子

(新潟大学歯学部歯学科6年生)

I. はじめに

この度、Boston で2015年3月11日(水)～14日(土)の日程で開催された第93回 IADR Hatton Award Junior 部門最終選考参加という素晴らしい機会に恵まれました。初めての学会参加を通して得た多くの感動をご報告したいと思います。

II. Hatton Award 最終選考参加

3月9日夕刻、Boston Logan 空港に到着。

ポストンはアメリカで最も古い歴史を誇り、そのヨーロッパ調の街並は車窓からでも漂うシックな威厳に満ちていました。

翌朝、Sheraton Hotel にて、Hatton Competition (Closed-door) が行われました。発表者のみの入室で緊張しましたが、審査員の先生方が笑顔で迎えて下さり、プレゼンテーション開始と同時に、「このステージは私のもの!」と、夢中で自分の研究を説明していました。リハーサル通りあつという間に10分間が過ぎ、質疑応答では私の臨床実習やラボのこともお話し、とても和やかな雰囲気です。終わることができました。

私の演題は“Functional significance of osteopontin in the process of osseointegration”で、内容はインプラント体周囲における骨



Hatton Awards Ceremonyにて
(審査員の先生、同じ日本代表の先輩方と。)

形成とタンパク質 osteopontin との関係についてです。高い技術を要する研究手法もたくさん盛り込まれていますが、ラボの先生方に助けて頂き、2年間かけて発表まで持っていくことができました。プレゼンテーションが終わった後は、今までの苦労や喜びが頭を駆け巡り、達成感が込みあげてきました。

学会3日目にはセレモニーがあり、大島勇人教授やラボの方々にご同行をお願いして参加頂きました。Award Winnersは皆外国人でしたが参加者全員に素敵な記念品のプレゼントも用意されており、その質の高さにも感動させられました。

その夜行われたダンスパーティーでは言葉の壁を越えた、心身共に楽しい時間を過ごさせて頂きましたことも申し添え致します。(写真1)

学会4日目は、Hynes Convention Centerにおいてポスター発表を行いました。会場には朝早くから多くの発表者がポスターを貼りにきていました。そこでは、私が日本から持ってきた強力なガムテープがとても人気で、色んな国の学生さんとお話する良いきっかけになりました。ラボの先生方をはじめ、IADR 元会長の黒田敬之名誉教授、Hatton awardsの審査員の先生方、IADR 関連の多くの先生方や緒先輩方が立ち寄って下さり、多くの貴重なアドバイスを頂きまして大変心強く嬉しい限りでした。

Ⅲ.最後に

私が研究をしている硬組織形態学分野では、朝の本読み会(英文を翻訳する会)が毎週水曜日に開講されています。私はそこへの参加を契機に、3年生の12月から少しずつ研究に携わるようになりました。いつも温かく研究をサポートして下さいました教授をはじめラボのメンバーに最大限の感謝の意を表しまして、またこのような素晴らしい学ぶ環境を与えて下さっている新潟大学の先生方にも紙面をお借りして心から御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

IV. 第63回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 中村 誠司

(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度の国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会を下記の要領で開催いたしますので、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

大会テーマ: Contribution to Overall Well-being through Oral Health

会 期: 2015年10月30日(金)～10月31日(土)

会 場: 福岡国際会議場

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1

TEL.092-262-4111

大会長: 中村 誠司

(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

準備委員長: 川野 真太郎

(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

特別講演 I 「Oral health in aging」

座長: 高田 隆

(広島大学大学院医歯薬保健学研究院
基礎生命科学部門口腔顎顔面病理病態学研究室)

講師: Dr. Marc Heft

(President, International Association for Dental Research)

特別講演 II 「Innate Immune Responses to Nucleic Acids in Inflammatory Disorders」

座長: 中村 誠司

(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

講師: 三宅 健介

(東京大学医科学研究所感染・免疫大部門感染遺伝学
分野)

特別講演 III 「The biologic effect of oligopeptides derived from fibronectin and its application to biomimetics」

座長: 高橋 信博

(東北大学大学院歯学研究科・歯学部口腔生物学講座
口腔生化学分野)

講師: Dr. Young Ku

(President, Korean Division of International Association
for Dental Research)

シンポジウム I [10月30日(金)]

「Exploratory Research on Cell Signaling-based Periodontal Regeneration」

オーガナイザー:

西村 英紀 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野)

座長:

西村 英紀 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野)

阿南 壽 (福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野)

シンポジスト:

「Cell signaling mechanisms of SIP-induced osteoblast and mesenchymal stem cell differentiation」

松崎英津子 (福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野)

「Smad2 and ROCK Signaling as Potential Therapeutic Targets for Periodontal Regeneration」

山本 直史 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻歯周病態学分野)

「Spry2 is a new therapeutic target for periodontal tissue regeneration」

讚井 彰一 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野)

「Role of Wnt signaling on periodontal regeneration」

根本 英二 (東北大学大学院歯学研究科・歯学部口腔生物学講座歯内歯周治療学分野)

シンポジウム II [10月30日(金)]

「Chronic Pain Problems in Clinical Dentistry: Their Clinical Features and Basic Mechanisms」

オーガナイザー:

古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)

座長:

古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)

中西 博 (九州大学歯学研究院口腔機能分子科学(歯科薬理学))

シンポジスト:

「Clinical features and mechanisms of chronic pain in dentistry」

築山 能大 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)

「Clinical features and mechanisms of nonodontogenic toothache」

松香 芳三 (徳島大学大学院医歯薬学研究部生体システム学)

養科学部門摂食機能制御学講座顎機能咬合再建
学分野)

「Onset Mechanisms of Neuropathic Pain」

井上 和秀 (九州大学大学院薬学研究院医療薬科学部門薬
理学分野)

シンポジウムⅢ [10月31日(土)]

「Cutting Edge of Biomaterials for Tissues Regeneration and
Reconstruction」

オーガナイザー:

石川 邦夫 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講
座生体材料学分野)

座長:

今里 聡 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学
講座 (歯科理工学教室))

都留 寛治 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講
座生体材料学分野)

シンポジスト:

「Fabrication of interconnected macro porous carbonate apatite
bone substitute using granular bridging with brushite」

都留 寛治 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講
座生体材料学分野)

「Bioadhesives for hard-tissue reconstruction and regeneration」

吉田 靖弘 (北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講
座生体材料工学教室)

「Non-biodegradable polymer particles for drug delivery to achieve
bio-functional reconstructive materials」

今里 聡 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講
座 (歯科理工学教室))

「Genetically-engineered proteins as functional building blocks for
tissue engineering scaffolds」

加藤 功一 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院生体材料
学分野)

シンポジウムⅣ [10月31日(土)]

「A Paradigm Shift from Reductionism to Holism: Oral Microbiome
Related to Human Health」

オーガナイザー:

山下 喜久 (九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講
座口腔予防医学分野)

座長:

山下 喜久 (九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講
座口腔予防医学分野)

石原 和幸 (東京歯科大学大学院歯学研究科微生物学講座)

シンポジスト:

「Salivary microbiome and environmental conditions in the oral

cavity」

竹下 徹 (九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講
座口腔予防医学分野)

「Microbial dynamics in subgingival lifestyle」

天野 敦雄 (大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学
講座予防歯科学教室)

「Oral butyric acid and its secrets」

落合 邦康 (日本大学歯学部細菌学教室)

V. 第64回JADR総会・学術大会開催 のご案内

JADR会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

第64回JADR総会・学術大会は、2016年6月に韓国、ソウル (Seoul) で開催される 94th General Session & Exhibition of the IADR ならびに第3回 IADR Asia Pacific Region (APR) 学術大会と併催で行われます。

今大会は、IADR Korean Division を host とし、Japanese Division, Chinese Division, IADR Southeast Asian Division, Australia/New Zealand Division, Indian Section, Mongolian Section, Pakistan Section の共催で行われるものです。国際色豊かな大会で、それぞれの Division, Section の年次総会もこの大会の中で行われます。この中で世界第2の会員数を誇る JADR は Asia Pacific Region の歯科医学研究の牽引役として期待されています。多数の会員の皆様の参加を得て大会を盛り上げたいと思います。奮ってのご参加を期待しております。

第64回JADR総会・学術大会

94th General Session & Exhibition of the IADR および 3rd Meeting of IADR Asia/Pacific Region (APR) と併催

開催日時: 2016年6月22日(水) ~ 25日(土)

開催場所: Seoul, 韓国 (詳細は未定)

主催: IADR Headquarter (IADR Korean Division)

VI. 国際歯科研究学会 (IADR/JADR) Affiliate membership 入会のご案内 ～国際学会へデビューしませんか～

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

国際歯科研究学会 (International Association for Dental Research: IADR) から、準会員制度 (Affiliate membership) の新設について、ご案内いたします。

本会員制度は開業されていらっしゃる先生方あるいは勤務歯科医師の先生方など、主に臨床現場に従事される先生方を対象として 2014 年度より新設されました。IADR 大会へ一緒に参加できることを楽しみに、ここにご案内申し上げる次第です。

IADR 学術大会並びに商社展示会は、北米大陸 (3 月) あるいは北米大陸以外の国 (6 月) で毎年交互に開催されています。今年 3 月にはアメリカのボストンにて開催されました。今後の予定として、2016 年はソウル、2017 年はサンフランシスコ、2018 年はロンドン、2019 年はバンクーバー、そして、2020 年には IADR 発会 100 周年記念大会がワシントン DC で開催されることが既に決まっております。

このメンバーのカテゴリーの特典は以下の 3 点です。

1. 年会費は正会員の約 8 割

年会費は正会員 (IADR 155 米ドル + JADR 60 米ドル * = 計 215 米ドル) の約 8 割で、174 米ドル (IADR 124 米ドル + JADR 50 米ドル) です (2015 年)。準会員 (Affiliate member) は、学術大会での研究発表はできませんが、IADR の学会に準会員として参加することができます。さらに、IADR からのすべての情報 (国際誌 Journal of Dental Research 等) にアクセスし入手することができます。

*IADR 会員は自動的に在住する国の部会の会員となります。

日本では IADR 日本部会 (Japanese Association for Dental Research: JADR) の会員となりますので、JADR の学会にもご参加いただけます。

2. 学会参加費は正会員価格

IADR 学術大会および JADR 学術大会への参加費は正会員価格となり、大幅に安くなります。

3. IADR および JADR から最新情報が自動配信

IADR および JADR から、ニューズレターや電子メールとして最新の歯科情報が自動的に手に入ります。いうまでもなく、IADR および JADR 学術大会では、歯科分野の最新情報が入手できることはもちろん、世界の歯科関係者と親睦を深め、FDI とも異なった視点での臨床に役立つ情報を得ることができます。

■ 申込方法

IADR のウェブサイトの「Membership」のページより「Affiliate membership」のタグをお選びいただき、「Join online now」にてオンライン上にて入会申込をいただくか、または「2016 Printable Application (PDF)」より FAX の入会申込用紙をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、IADR 本部へお送りください。

質問事項やお問い合わせ等ございましたら、JADR 事務局 (jad@ac-square.co.jp) までどうぞお問い合わせください。

本年 10 月に開催されます第 63 回学術大会では、Affiliate membership 向けの臨床報告セッションを予定いたしております。臨床に従事される先生方にますますご活躍いただけるよう、ぜひとも関係の先生方への周知をお願いいたします。

CONTENTS

I. 2015年度ノーベル賞日本人受賞に際して思うこと —地道なオリジナル研究とチーム力—	1	I. Brief remarks about two Nobel Prize winners from Japan - Steady original research and team force -	1
II. 第93回 IADR 学術大会 (Boston) 報告		II. Reports of the 93rd IADR General Session in Boston M.A., U.S.A.	
1. Distinguished Scientist Award for Geriatric Oral Research を受賞して	2	1. Distinguished Scientist Award for Geriatric Oral Research Dr. Kazunori Ikebe: Osaka Univ	2
2. Bernard G. Sarnat Award 1st place を受賞して	2	2. Bernard G. Sarnat Award Dr. Naomi Yamamoto: Tokyo Med. Dent. Univ.	2
3. 93rd General Session & Exhibition of the IADR in Boston に参加して	3	3. Reports of the 93rd IADR General Session (Boston M.A., U.S.A.) Dr. Miho Ohta: Kyushu Univ.	3
4. 第93回 IADR 学術大会報告 —Prosthodontics Research—	3	4. Prosthodontics Research Dr. Shoko Miura: Tohoku Univ.	3
5. Prosthodontics Research	4	5. Prosthodontics Research Dr. Mariko Ishikawa: Showa Univ.	4
6. 第93回 IADR 学術大会 (Boston) 報告 —Implantology Research—	4	6. Implantology Research Dr. Yukihiro Okada: Showa Univ.	4
7. Prosthodontics Research	5	7. Prosthodontics Research Dr. Miya Fukunishi: Showa Univ.	5
8. 第93回 IADR General Session (Boston) に参加して —Implantology Research—	5	8. Implantology Research Dr. Kazuo Okura: Showa Univ.	5
9. 第93回 IADR Boston 大会 —Prosthodontic Research—	6	9. Prosthodontics Research Dr. Yoshitaka Suzuki: Tokushima Univ.	6
10. 第93回 IADR 学術大会 (Boston,) 参加報告 —Neuroscience—	6	10. Neuroscience Dr. Katsuhiko Omoto: Tokushima Univ.	6
11. Join in the 93rd General Session of IADR	7	11. Join in the 93rd General Session of IADR Dr. Ai Tokue: Tsurumi Univ.	7
III. IADR Hatton Award 本選を終えて		III. The IADR/Unilever Hatton Awards Final Competition	
1. IADR Hatton Award 本選を終えて	8	1. Dr. Tomomi Kiyama: Tohoku Univ.	8
2. IADR Hatton Award 最終選考を終えて	8	2. Dr. Mayuka Nakajima: Niigata Univ.	8
3. IADR Hatton Award 最終選考を終えて	9	3. Dr. Sachiko Furukawa: Kyushu Univ.	9
4. Hatton Award 最終選考を終えて	9	4. Dr. Sanako Makishi: Niigata Univ.	9
IV. 第63回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・ 学術大会開催のご案内	11	IV. Announcement of the 63rd JADR General Session Dr. Seiji Nakamura: Kyushu Univ.	11
V. 第64回 JADR 総会・学術大会開催のご案内	12	V. Announcement of the 64 JADR General Session, 94th General Session & Exhibition of the IADR, and the 3rd meeting of the IADR Asia Pacific Region	12
VI. 国際歯科研究学会 (IADR/JADR) Affiliate membership 入会のご案内	13	VI. Announcement of the IADR/JADR Affiliate membership	13

●編集後記●

本年3月にボストンで開催された第93回 IADR 学術大会が成功裏に閉会し、安孫子先生もこの大会をもって、IADR 会長を無事退任されました。大変ご苦労様でした。今後も JADR に貴重なご意見、ご指導を賜りたいと存じます。本ニューズレターでは参加された皆様には熱気あふれる学術大会の様子を寄稿いただきましたが、JADR 会員の活躍の様子が伝わってきます。とりわけ、大阪大学の池邊一典先生が Distinguished Scientist Award for Geriatric Oral Research を受賞されたことは、大変喜ばしく、日本の研究力を改めて示すことができたのではないかと思います。IADR Hatton Award 本選では、残念ながら日本からの入賞はなりませんでした。参加者の皆さんは彼の地で研究以外にも多くを学んで帰国されたのではないのでしょうか。今回の経験を糧に一層の活躍を期待したいと思います。また、10月には中村誠司大会長の下、第63回の JADR 学術大会が福岡で開催されます。多くの会員が参加され、実りある大会になることを祈念いたします。

発行 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp/>

連絡先: 〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

アカデミック・スクエア (株) 内 TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773

JADR 副会長 山崎和久 (新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

連絡先: 〒951-8514 新潟市中央区学校町通二番町 5274 FAX: 025-227-0744

2015年9月30日 発行